

24年国民春闘スロガン

☆たたかう労働組合のバージョンアップで、

低賃金と物価高騰から生活まわる
☆大幅賃上げ
底上げ実現！
☆軍拡・増税でなく社会保障の充実を！

戦後の日本は、国民・労働者が一体となり国民的要求と賃上げ実現を求め

「春闘」が公共サービス・社会保障を拡充させ、賃上げが経済成長を創ってきた。しかし、1980年代の臨調行革に始まった新自由主義政策により、「公共サービス・社会保障は縮減され、同じく1980年代に始まった労働戦線再編と非正規雇用解禁が、労働組合の組織力を低下させ、日本の労働者の平均賃金は1997年をピークに25年以上も上がっていない。

《団体紹介》香川県労働組合総連合(県労連)

香川県の全労連組織【香川県労連】に結集する各労働組合も、2023年春闘のスロガンから「労働組合のバージョンアップ」を掲げ、要求運動強化と組織力強化を一体に取り組んでいます。

国立病院労働者の賃上げを求めて30年ぶりにストライキを実施した「全医労」など医労連4単組。教育関係労働者を組織する香川高教組・香教組。保育労働者を組織する福祉保育労。自治体労働者を組織する自治労連。郵



政労働者を組織する郵政ユニオン。国公労働者を組織する香川県国公6単組。年金生活者を

組織する年金者組合が独自要求の実現運動を強化しています。併せて組織強化も図りながら、社会保障制度改善など国民的要求の実現運動への結集も図っています。

また、労働者賃金の底上げと地域経済回復を目指す全労連重点要求として、「最低賃金の全国一律制」の2024年度法制度化を目指して、国会議員要請や地方自治体議会の意見書採択に取り組んでいます。さらに、労働者の生活を守るには平和が必要であり、「戦争する国づくりストップ！憲法を守り、いかなる香川県共同センター」の事務局として、軍事予算を減らして災害復興や社会保障制度拡充に回せと要求し、平和

日本を「戦争国家」にする 安保3文書 その1

9条の会・かがわ事務局

国民「戦争への決意を迫る

高松港を自衛隊が利用する「特定利用港湾」という「軍港」にしようという計画が持ち上がっています。多くの国民にとって寝耳に水のこの話、どうしてこんなことにな

の中に、「自衛隊が利用するために既存の空港・港湾を整備・機能強化する」と書き込まれたことの具体化です。これから順次紹介していきますが、3文書は実際に日本が戦争するさまざまな場面を想定しそれに対応する装備や施設設備、施策などをこと細かに定めたもので、まさに戦争を準備する文書です。



「防衛力整備計画（整備計画）」の「安保3文書（以下「3文書）」

その中心文書である安保戦略の冒頭には「策定の趣旨」として、「国家としての力の発揮は国民の決意から始

6の日行動で訴え

高松市の商店街で香川革新懇と9条の会かがわは6日、6の日行動をし「高松港の軍港化反対」や「戦争は最大の人権侵害」また、

裏金議員は全員辞めろ」などの横断幕やプラスタを掲げ、リレートークを行いました。石田まゆ衆院香川二区候補【3面につづく】

【2面から】は、裏金事件の不記載の問題で、野党の追及により、出てきたのは主要派閥による政治資金収支報告書の偽造や三年間分しかない裏金議員リストの提示など、自民党の裏金事件への調査や対応の姿勢を問題視。「身内調査」で、不記

載の実態把握や真相究明とは程遠いどころか実態を隠すために記者会見すらせず、派閥の解消・解散論議でごまかそうとしていることを強調。「市民と野党の声と力



で、金権腐敗の自民党政治を退場させるため、ひとり一人が声を上げていくことが大事で、国民的大運動を開展させていきたいと思います。」と訴えました。

日本共産党木太北・南後援会が高松市で4日、餅つきやバザー、マジック披露、ウクレレによる音楽の催しのある「春をよむじゆん」

春をよむじゆん

木太北・南後援会

を主催しました。白川よう子衆院四国比例候補、かし昭二香川県議会議員が参加しました。白川氏は政治の責任で能登地震の被災者の生活、生業の再建が必要であることを強調。

ASEANの対話の習慣に学び、平和の準備こそ必要だ」と強調。かし氏は、県議会時代の白川氏の県議による豪華な海外視察への質疑が端緒となり報道や議会での追及が始まったことを紹介。「農地転用や高齢化で食料自給率は今後危機的状況だ。農業を基幹産業に据える。また高松港の軍港化は許されない。戦争への道をストップしなければならぬ」と訴えました。

1月末の日曜日、香川県丸亀市後援会が「高知の後援会に学ぶツアー」を実施しました。地域ごとの後援会づくりの提起も受けて、丸亀市でも後援会の再出発を、昨年計画してきたもので、昨年は高知が選挙続きで、年が明けて党大会が終わってからのことになり、待ちに待った高知行きとなりました。

私も前入りして、高知県議団や市議団とともに日曜日宣伝でお迎え。山原健二郎資料室を拝見したのち、高知の後援会との活動交流となりました。高知市内の3つの後援会から具体的な活動の現状をお聞きし、毎週発行している眞議・市議のニュース届けを中心とした活動に学びました。この配達・訪問の活動は「週単位で地域をつかむ」といになり、地域に足を運ぶことで次に支部が「何をすべきかは地域が教えてくれる」と。どこに学ぶべきか、宝物のような言葉が次々と胸に刺さります。

どうやったら後援会活動を軌の地域でも。さあ、総選挙勝利へ、私たちが



勇気いじじいこトッコイ 白川よう子 四国ブロック国政対策委員長

私学助成増額を求めて 対県交渉

香川県私学助成をすすめる会(田中健二会長)は1月26日、香川県に対して私学助成の

充実を求め池田豊人知事に4千138筆の署名を手渡しました。【4面につづく】